

日時▶ 2025年6月20日（金）

12:30 ~ 13:20

会場▶ **JA上川ビル大会議室**

〒070-0030 北海道旭川市宮下通4丁目2番5号

座長

岩田 洋 先生

順天堂大学順天堂医院
循環器内科 先任准教授

演者

谷川 義則 先生

佐賀大学医学部附属病院
手術部 准教授



カテーテルアブレーションにおける 麻酔科医による全身麻酔管理の効果

- 本セミナーは整理券制ではありません。
- 現地開催のみ。

カテーテルアブレーションにおける 麻酔科医による全身麻酔管理の効果

カテーテルアブレーション（catheter ablation; CA）は頻脈性不整脈に対する根治的治療法として確立され、3Dマッピング技術等の進歩に伴い症例数が増加している。本邦では、麻酔科医不足の影響もあり、伝統的に局所麻酔下の鎮静管理が多く行われてきたが、長時間の処置、左房後壁焼灼時の強い疼痛、そして高齢・肥満・睡眠時無呼吸症候群合併といったハイリスク症例の増加により、十分な鎮静・鎮痛と呼吸循環管理の維持が困難な場合がある。

近年、全身麻酔（General anesthesia; GA）管理下CAは、患者の快適性や不働化の向上に加え、手技時間・透視時間の短縮、さらにはアブレーション治療成績の向上に寄与する可能性が報告されている。当院でも2019年より麻酔科管理によるGA下CAを導入し、良好な治療成績を得ている。

一方で、GA下CAにおいては、周術期麻酔関連合併症、特に術後嘔気嘔吐（Post-Operative Nausea and Vomiting ; PONV）と麻酔薬による循環抑制が重要な管理上の課題となる。CAにおける重篤な合併症である左房食道瘻などの消化器関連合併症のリスクを考慮すると、その誘発・増悪因子となりうるPONVの予防は極めて重要である。しかし、GA下CAにおけるPONVのリスク因子や至適予防策に関するエビデンスは未だ少ない。また、GA導入時の血圧低下や不整脈誘発のリスクを最小限にするための、血行動態への影響が少ない麻酔薬選択も不可欠である。

本発表では、GA下CAにおけるPONV発生と循環動態の安定化という課題に対応するために当院で構築した麻酔管理プロトコルを紹介する。さらに、本プロトコル導入によるPONV発生率の低減効果および循環動態安定化に関する臨床研究の結果を報告する。

谷川 義則 先生
佐賀大学医学部附属病院
手術部 准教授